

金曜日の会 報告

- 1 期日 3月5日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O AK AS YO
- 4 内容

『あとかくしの雪』記録・板書 AK

問題 YO

『世界一美しいぼくの村』映像 AS

『多色版画』 AK

○『あとかくしの雪』では、きめ細やかな問題作りについて考えました。始めの段階で百姓中心(だけ)の問題作りをすると、抜け落ちる所ができるので、他も全部挙げさせてみる必要があります。つまり、課題型人物レベルの問題と証拠型言葉レベルの問題を全て出させるということです。また、課題型となる人物レベルの問題作りでは、『合わない』という言葉と言葉の矛盾に着目できる子どもたちを4月から意識して育てていくことが大切です。更に、話の後段で大根を一本盗んだ原因を問題にするのはいいですが、やはり直前の『けれども～もてなしてやるもんがない。』を考えた上で、重罪となる盗みをはたらいたよほどの理由を考えると、順を追った思考が大切だと分かりました。『晩になってから』の晩とはいつ頃か、基準は何なのか、近所の家々が全て寝静まった頃という解釈には驚かされました。やはり、言葉を丁寧に読むことは、見えなかった景色(イメージ)が見えるようになることにつながります。次は、これがどこ関係があるのか、考えなくてはなりません。

○『世界一美しいぼくの村』では、言葉についての対話の重要性が話題になりました。『(気持ち)暗くなった(これは書かれていません)』という概念的な発言に振り回されてはいけないということです。『むねがいっぱいになってきました。』の『いっぱい』とは、どんな気持ちがいっぱいになってきたのか?『きました』には時間の経過があるが、父はこの過程をいつも見ており、『そんな』ヤモを見てこのタイミングで言葉を発したと考えられます。浅越学級の子どもたちの声には、明るさと心地よい張りがあります。教材の内容による所は大きいと思いますが、先生の何か子どもと考えることを楽しむ姿の表れでもあるでしょう。私は、大きな刺激を受けました。

○多色版画の作品からは、安倉先生が子ども一人一人に丁寧に関わる様子が伺われました。また、どの子の作品も丁寧に制作されていて、集中していることが伝わってきました。水加減の調整もうまいなあと思いました。白色の混ぜ具合と鮮明さが、これから実践する時の課題となりました。文責 YO